

平成26年度の食育推進事業報告及び平成27年度事業について

保健福祉局保健衛生推進室 保健医療課

1 「食情報提供店」事業の見直しと『食の健康づくり応援店』事業の検討等【参考：別紙1】

平成15年度から府市協調事業として、栄養成分表示やヘルシーメニューの提供等の健康づくりに取り組む飲食店の情報をホームページ等で紹介し、市民に啓発をしてきた。

平成25年度、10年間の取組を総括し、加入店舗数の伸び悩み等の課題を検討するため、事業改定に向けたワーキング会議を3回開催した。

今年度、ワーキング会議での意見等をもとに府市で新しい事業案を検討し、平成27年4月から「食の健康づくり応援店」事業を立ち上げる。

<見直しの内容>

- 登録基準を、現在の府市民の健康課題の解消や健康日本21(第2次)の目標達成につながるものに改定。
- 基準変更に伴い、従来の「食情報提供店」加入店舗については、3年間で「食の健康づくり応援店」への移行を働き掛ける。
- 栄養価計算ソフトの紹介やマニュアル作成、食物アレルギーの情報提供や講習会等、登録店の支援を強化する。
- 登録店の店頭に掲示していただくステッカーを作成するため、シンボルマークを募集。総数58件の応募作品の中から最優秀作品を選考し、右のとおりステッカーを作成。



2 食育月間の取組(各保健センター)

新「京(みやこ)・食育推進プラン」(平成23年3月策定)の重点課題である「食育の普及促進」のための取組として、プランに掲げる目指す姿(五つの京食)の実現に向け、一年に一項目ずつ重点を置いて取り組む。

全市共通のテーマを決め、保健センター・支所で食育セミナーを開催。

(1)平成26年度

- ・ 講話テーマ『食事も運動も適量が大事♪』
- ・ 献立テーマ『初夏を感じるバランスクッキング』



- ・ けんちんの湯葉包み 枝豆あんかけ
- ・ モロヘイヤとトマトのごま酢和え
- ・ かぼちゃの彩りサラダ
- ・ 柚子もち

- ・ 産業観光局農業振興整備課の協力で京都市内産の米を使用
- ・ 全市26回 参加者592人

(2)平成27年度

- ・ 講話テーマ『みんなの力で地域に食育を響かせよう』
- ・ 献立テーマ『京(みやこ)簡単バランスクッキング』
- ・ 全25回 予定

五つの京(きょう)食	
23	朝の今日(きょう)食
24	京の郷食
25	京の共食
26	京の協食
27	京の響食

3 京都市 食のポータルサイト「京・食ねっと」の運営

(1) 平成26年度

- ・ 投稿レシピの充実 レシピ数800件から約900件に増加
- ・ トップページグローバルナビの改修及びページの並び方の変更



(2) 平成27年度(予定)



- ・ 「食育指導員の登録者紹介ページ」の改修
- ・ 新規事業「食の健康づくり応援店」の申込方法、登録店情報等のページの新設

<課題等>

- 「京・食ねっと」への訪問者数は順調に伸びているが、「京都市の食育」や「各区のイベント情報」等へのアクセスを増やし、事業の参加者増加につなげる取組みが必要である。
- 食育指導員への活動依頼につながるよう、食育指導員の活動紹介や登録者情報の掲載

4 次世代に向けた食育事業：大学との連携による食育の推進

(1) 平成26年度

自立した食生活を始める時期である大学生を対象として、朝食の欠食や女性のやせの改善に向けた取組等を行い、望ましい食生活習慣の形成を支援することを目的に実施。

<事業名> 『キラッ☆と輝く素敵女子へ！～綺麗をつくる食べ方マスター』

- 日程会場等

10月6日(月)	同志社女子大学 純正館1階ラウンジ
10月16日(木)	京都女子大学 Aチカ食堂
10月21日(火)	京都光華女子大学 聞光館
12月11日(木)	京都聖母女学院短期大学 本館2階

- 内容 パネル展示、栄養指導、体験型コーナー(みそ汁味比べ、非常袋の重さ体験)等
- アンケート回答者414名、体験型食育コーナー参加者約530名

<アンケート結果(抜粋)>

- 「朝食をほとんど毎日食べる」は72%であり、朝食を食べない理由は「起きてすぐ出かけるから」「もっと寝ていたいから」が多く、欠食習慣を改善する手段として有効なことは「大学の食堂に朝食メニューがある」が一番多かった。
- 災害時に備えての食料等の備蓄(買い置き)をしている割合は36%であり、災害時の食に関して不安に思っていることは「ない」が56%であった。

(2) 平成27年度

対象を男子大学生にも広げ、大学内で健康展を開催し、30代・40代男性の課題である「肥満」を若い頃から予防できるよう、適切な食生活の実践を啓発する。

5 ふれあいファミリー食セミナー

家庭における食育を推進するため、出産を控えた養育者(近く父母となるもの)及び、乳幼児又は小学生とその保護者を対象に食生活指導を行うとともに、食を通じた家族形成の推進を図る。

(1) 平成26年度

	実施場所		26年度実績(～12月)	
	平日	保健センター	33回	174人
マタニティクッキング	休日	委託	6回	131人
離乳食講習会	平日	保健センター	94回	1796人
幼児～小学生のクッキング	平日	保健センター	7回	95人
	休日	委託	9回	206人(申込454人)

<課題等>

- 幼児や妊婦対象の教室は、休日の参加者が多いため、若い世代の就労状況やニーズを考慮し、開催日時、場所、内容を検討する必要がある。
- 離乳食3回食～幼児食への移行期に不安や疑問を持つ保護者が多く、8カ月健診での個別相談に加え、講習会等で丁寧な説明が必要。

(2) 平成27年度

ア マタニティクッキング

平日開催では、午前中に講話と調理実習を実施しているが、参加者数が減少している。次年度は、妊娠中の食生活の講話や、参加者同士の交流に重点を置いた平日午後開催のコースを試行的に年4回開催する。

<内容>

- ・管理栄養士による妊娠中の食生活についての講話
- ・鉄分、カルシウム、葉酸たっぷりメニューの試食(調理実習は行わない)
- ・交流会

イ 離乳食講習会

離乳食については、8カ月児健診での個別相談が多いことから、卒乳を迎え、食事からの栄養摂取が主となっていく1歳以降の食生活について、適切な栄養バランスや食事作りを啓発できるよう、「8カ月健診後の離乳食講習会」の開催箇所及び回数を増やす。

6 食育セミナー（各保健センター）

食生活を適切に判断・選択する力を身につけ、より望ましい食生活を実現するため、保健センター又は地域に出向いて、食育に関する講話や調理実習を行う。

- ・ 71回 1475人（平成26年4月～平成26年12月）

【内容：26年度開催内容抜粋】

- ・ 男の磨き塾（初めて調理する男性のための教室）
- ・ 年始の食生活見直しバランスクッキング
- ・ 骨こつクッキング（骨密度測定と運動・食事の教室）
- ・ 再発見・新発見乾物の魅力

7 その他

- ・ 「第41回くらしと健康展」平成26年10月26日(日)京都府医師会館
京都市ブース「健康に関する数字クイズ」254人
※食育指導員1名に活動依頼
- ・ 「京の冬野菜フェア」平成27年1月31日(土)市役所前広場、ゼスト御池
食育ブース「食育体験コーナー」200人
※食育指導員7名に活動依頼



- ・ 市民しんぶん区民版8月15日号折込みチラシ
「災害に備えて今家庭でできること」の配付 約65万部